

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

13002

湊御殿管理運営事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	文化財保護費		
	大事業	文化財保護事業		
中事業	湊御殿管理運営事業			

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	文化振興課	洲崎 敬一郎 435-1194
事業実施の根拠法令	和歌山市文化財保護条例		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	市指定文化財(建造物)湊御殿を適切に維持管理する。		市指定文化財(建造物)湊御殿を適切に維持管理する。			
事業内容	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	
		建物および庭園の維持管理、附属トイレの維持管理。観覧料及び施設使用料の徴収。観覧者数 5,522人	建物および庭園の維持管理、附属トイレの維持管理。観覧料及び施設使用料の徴収。観覧者数 2,336人	建物および庭園の維持管理、附属トイレの維持管理。観覧料及び施設使用料の徴収。	建物および庭園の維持管理、附属トイレの維持管理。観覧料及び施設使用料の徴収。	建物および庭園の維持管理、附属トイレの維持管理。観覧料及び施設使用料の徴収。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	0	0	9,577	11,200	11,655	11,818	11,730	0	11,730	0
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	21.7%	5.5%	0.6%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	0	0	1,853	2,071	2,071	2,071	0	2,071	0
	正規職員以外	0	0	8,537	11,253	11,253	9,446	0	9,446	0
	小計	0	0	10,390	13,324	13,324	11,517	0	11,517	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	1,362	0	1,362	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	74	5	74	65	65	0	65	0
一般財源(税等)	0	0	9,503	11,195	11,581	11,753	10,303	0	10,303	0
所要人数(人)	正規職員	0.00	0.00	0.00	0.26	0.26	0.26	0.00	0.26	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	4.26	4.72	4.72	3.74	0.00	3.74
主な予算内訳	使用料及び賃借料(土地借上料) 5,550千円 植栽等委託料 2,398千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
開場日数	日	目標値		365	366	365	365
		実績値		365	354		
		達成度(%)	%	97%	100%	%	%
観覧者数	人	目標値		9000	9000	9000	9000
		実績値		5522	2336		
		達成度(%)	%	59%	25.7%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	通年開場しているにもかかわらず、観覧者数が減少傾向となっているため、多くの人に来てもらえる仕組み作りが必要となっている。特に令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数が大幅に減少した。
見直し・改善内容	平成24年4月1日から観覧料を半額（一般100円）にするとともに、養翠園・和歌山城・旧中筋家住宅・市立博物館に1週間以内に入場した者は湊御殿観覧料を無料にし、観覧者数の増加を図っている。